# 笠野原土持堀の深井戸

【所　在　地】鹿屋市串良町細山田 5323
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 57 年５月７日

鹿児島県本土の大部分をおおうシラス台地は水に乏しく開発が非常に遅れ，おおむね江戸時代中期以降になってようやく開発がすすんだ。

開発に当たっては水の確保が特に重要な課題であり，笠之原台地では深井戸を掘って水を得る方法がとられた。笠野原台地には，30m ～ 80m に及ぶ深井戸が多数掘られ，そのいくつかが現存している。特に深い井戸では，ツルベを人力でひきあげることができないので，牛や馬に綱をひかせる方法がとられた。綱をひく牛馬が往復する道「ツイノババ」（つるべの馬場）とよび，この土持堀（地元では「ツッモイボイ」とよばれる）の深井戸にはこれもよく保存されている。

井戸は文化元（1804）年以前に掘られたもので，直径１ m，深さ 64m，４枚の囲石（0.33 × 1.33m）を正方形に組み合せてある。